

分立的城構造 中世へ脈々

安倍氏やそのほかの有力な一族、地域の豪族たちが集団を率いて鳥海柵に集まり、全体として連合的な城郭構造を持つ城をつくっていたのではな

いか。そしてこうした城郭構造は、大鳥井山遺跡とも共通したと言えます。

一方所だけが絶対的な頂点だったのではなく、分立的な権力であったことを物語る城の姿です。

大鳥井山遺跡も、もちろん場所の高いところ、低いところはありませんが、堀が互いに向き合っているところが見つかっていて、階層的ではなく

鳥海柵では、堀や自然の沢で区切ったところがそれぞれ櫓や柵を備えていました。そして、いろんなところに、四面廂の重要な建物が建っていました。これは、城のあ

体として鳥海柵あるいは大鳥井山遺跡という緩やかにまとまった城をつ

くたさ理解すべきです。こういった分立的で並立的な城の造り方は、その後の中世後期の城にも受け継がれていきまし

た。岩手県の一戸城、浄法寺城という戦国時代の城は、いずれも横並びの関係を主要な城館があり、それが緩やかに連結して一つの城をつくりま

金分崎の国指定史跡 鳥海柵跡

5

考察 全盛期の中心的建物

2017年度 シンポジウムより

講演 千田 嘉博氏 (奈良大学教授)

「前九年合戦と鳥海柵」

V

末中世初頭のものだけではなく、後の中世後期の城まで続く、地域の城

づくりの原型だったと評価できます。つまり江戸時代とは違う、中世的な城のつくり方という観点で、鳥海柵を理解し評価することが必要なのです。

これまでも鳥海柵についてはさまざまな考察や評価がありますが、それ

これらの堀や沢で区切った城館空間が、それぞれどんな関係にあり、どう機能したのか、近世の城の理解を前提としない視点から見直すことに意味があると思います。

そして中世後期の地域の城づくりに関連として受け継がれていく中世の城づくりの原型が、鳥海柵で生まれていたのを確認できたことは、あらためて鳥海柵の歴史的価値の大きさを証明している

と考えています。

千田 嘉博 (せんだ・よしひろ) 奈良大学文学部文化財学科教授。1963年、愛知県生まれ。奈良大学文学部文化財学科を卒業後、名古屋市見晴台考古資料館学芸員、国立歴史民俗博物館助教授を経て現職。

(つづ)



中世的城づくりの原型として地域で受け継がれた可能性を指摘する千田嘉博教授